

ど原作なす、
今據一本改、くれて侍りしをこそは、とかくに侍しか、

〔吾妻鏡 四十二〕建長四年三月十九日癸卯、今曉三品親王宗關東御下向也、略中、午剋著御于野路

驛略○中

御雜事

米卅石、白米二石、宣旨斗定贄殿入物、上白米三斗、宣旨斗、○中略

入夜著御于鏡宿、佐々木壹岐前司泰綱儲雜事云云、略○中

御雜事

能米卅石、白米二石、宣旨斗定贄殿入物、上白米○中略

〔伊呂波字類抄志〕塵牙。

〔易林本節用集食之〕塵牙シヤウガ名。

〔書言字考節用集六服食〕塵牙シヤウガ白米似、シヤウガ、

〔倭訓栞後編九〕しやうが略○中、塵牙は東鑑に見えたり、米の事也といへり、

〔玉造小町子壯衰書〕女答予曰、吾是倡家之子、良室之女、娘一作焉、壯時僑慢最甚、衰日愁歎猶深、齡未及

二八之員、名殆兼三千之列、略○中、衣非蟬翼、不著、食非塵牙、不食、

〔南畝莠言上〕よく精たる米を塵牙といふ、今俗にも猿の牙のごとき米など、いへり、按ずるに、日

本紀略花山院寛和元年三月十八日の紀に、施以塵牙百斗、又明月記源平盛衰記等にもみえたり、

〔白氏長慶集十六律詩〕官舍閑題

職散優閑地、身慵老大時、送春唯有酒、銷日不過棋、米塵切土、良牙、稻園蔬鴨脚葵、飽餐仍晏起、餘暇

弄龜兒龜兒即小姪名

〔日本紀略八〕寛和元年三月十八日壬戌、少納言外記等、參會六波羅密寺、修善根、施以塵牙百斗、